



2012年6月13日

通巻 1185 号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
076-262-6009 角間内線2105
E-MAIL kanazawa@ku-union.org



トスカナの隠れ里 ピストイアを訪ねて

石黒 盛久 (歴史言語文化学系)

この3月21日から27日にかけイタリアの古都フィレンツェを中心に、約1週間の海外研修旅行を行ってきました。今回の訪問の主目的は、近年私が関心を持っている同市近傍の都市ピストイアで生じた、住民の派閥抗争に端を発する15～16世紀の内乱をめぐる文献資料の探索にありました。メディチ家の人々はもちろん、ブレネレスキやマキアヴェッリあるいはチェーザレ・ポルジアなど、ルネサンス時代の主役たちも登場する小さな街の小さな内紛の物語については、またいつかお話しする機会もあるかもしれません。



▲切り株の孤児院

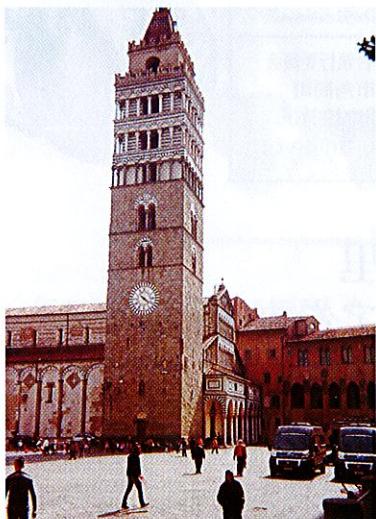


▲大聖堂

ピストイアとはどんな街か。一言でいえば小京都ならぬ小フィレンツェという言葉がぴったりする街です。街のシンボルともいえる〈謙遜の聖母〉大聖堂の丸屋根のシルエットは、有名なフィレンツェ大聖堂の丸屋根のシルエットそっくりです。また今回の文献調査の対象となった〈切り株の孤児院〉の回廊は、私がフィレンツェで最も美しい場所と感じている〈罪なき子らの孤児院〉の回廊を彷彿とさせます。街の中心一大聖堂前広場一に配置された洗礼堂はフィレンツェの聖ヨハネ洗礼堂と並んで、中世トスカナを代表する洗礼堂とされています（個人的にはきりっと締まった緊張感のあるピストイアの洗礼堂の方が私は好きです）。14世紀まで都市国家として繁栄しながら、大都市フィレンツェに次第に従属された歴史を持つピストイア。ピストイアの小フィレンツェぶりには、自身の独立を自負しフィレンツェと競り合おうと力めば力むほど、文化的にますますフィレンツェ化してしまった、この小都市の悲哀を感じざるを得ません（このことについては私の属する国際学類の授業用教科書として刊行された『国際学への扉』[改訂版]に一文を載せました）。



▲洗礼堂



▲鐘楼

古の都市国家の名残かイタリアの都市は文化の独立性が高く、地元の出版社や雑誌社、新聞社そして書店などが20年ほど前まで地域に活気を与えていました。ところがこの20年の間のグローバル化の流れの中で、これらの地場文化の担い手は行き詰るか大資本に合併されるかして、否応なしの画一化がこの地でも進行しています。こんな小さな街に以前はなかったフェルトリネッリやエディソンといった大都会のメガ書店（日本でいえばジュンク堂や紀伊国屋）の展開の一方、地方史の基本文献を扱う個人経営の書店や古書店が軒並み姿を消しました。ようやく見つけたそうした個人書店で、私がピストイアの歴史を研究しているのだといった時のご主人の嬉しそうな顔。

そして次から次に紹介される本の題名。本と地域を愛する地道な知識人が未だ生き残っていることに安息を覚えつつ、わが街への愛ゆえに文化的に洗練されて行き、洗練すればするほどフィレンツェ化して行ったその昔のピストイアの文化人のことが思い起こされ微苦笑を禁じ得ませんでした。



▲青物市場



▲ピストイア 遠景



▲城外の聖ヨハネ教会

記事募集いたします！

『ゆにゆに』の記事を書いてみたい。そんな方はぜひご連絡ください。
隨時受け付けております。ジャンルは問いません。

金沢大学教職員組合

角間内線：2105 TEL/FAX：076-262-6009
E-mail：kanazawa@ku-union.org

8年ぶりの！

新アカンサスレビュー

數見 由紀子（外国語教育研究センター）

『ごじゅっとペディア—楽しく学ぶ茨城弁—』

(著者：青木 智也、発行：茨城新聞社 (2011年)、ISBN978-4-87273-266-5)

このところ「うどん県」など県の PR が注目を集めていますが、この機運に乗って、今回は超ローカルな本をご紹介します。

「ウィキペディア」ならぬ「ごじゅっとペディア」

お正月に小学生の姪が、サンタさんにもらった、と言って見せてくれたのが、ここでご紹介する『ごじゅっとペディア』です。（サンタさん、シブい！）タイトルにもインパクトがありますが、ページをめくれば、出るわ出るわの茨城弁オンパレード！ ネイティブでも圧倒されます。

「ごじゅっと」は「でたらめ」とか「いいかげん」という意味の茨城弁ですが、ご安心ください。姪は例文だけ拾い読みしていましたが（それも楽しい）、解説部分は言語学的に見ても体系的で読み応えがあります。学習参考書形式で、基礎文法編／実践会話編／[標準語との] 比較・区分編があり、茨城弁初級者（！）でも段階的に学べます。コミュニケーションと言語文化に重点をおき、県民・県外の方の双方の視点に立った解説には、深い郷土愛を感じるとともに、言語教育の目的についてあらためて考えさせられました。

「ペ」以外もマスターしよう！（本書見出しを一部改変）

茨城弁と言えば「ペ」ですが、本書ではこのほか、「かっちらかす」（散らかす）、「くんのむ」（飲み込む）などの強調の接頭辞、「ざふとん」（座布団）、「にちかん」（2時間）などの清音化、「めんきしょ」（免許証）、「しじつ」（手術）などの拗音省略など、詳細な記述・分析が展開されています。

例文も、「水戸さ行ってみつか」、「日立はそっちじゃあんめ」など軽めのものから、「そんなえしけーの、かっぽっちめえ」（そんなぼろいのは捨ててしまえ）、「よーぐおっちめねーと水むっと」（よくしめないと水が漏れるよ）などヘビーなものまで多彩です。文字化で強調される特徴に、ネイティブなら抱腹絶倒まちがいない。でも、これっちゃやネイティブでなきや、わがんねーのげー？いや、そんなことあんめー。訊いてくれっぱ、なんばでも説明すっから、ためしに読んでみたらいいがっぺよ。

応用会話例（本書例文を基に紹介者試作、太字部分は標準語訳つき）

A: おー、いんのげー（いるの）？

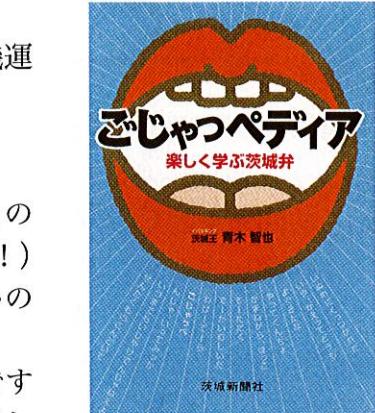
B: あれ、はー来たの（もう来たの）？ そんなどご、つっ立ってねーで、
上がってお茶でも飲んだらいがっぺよ（いいでしょう）。

A: んじや、よばれっかな（いただこうかな）。

B: あーれ、さつき、ボガーンり（って）音したっぺね（でしょう）。
うちげ（私の家）の近くにらいさま（雷）おっこった（落ちた）わ。

A: おー、やだごど（いやだ）。…どーれ、行ってみっかな（家に帰るね）。

B: なんだっぺ、まだいがっぺよー（あらどうして、まだいいでしょう）。



▲発行日は11月13日
(茨城県民の日)。

茨城王（イバラキング）
こと青木さん、さすがに
外しません！



▲水戸・偕楽園の梅（本年3月撮影）

「ふるさとの 詫なつかし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」（石川啄木）

昨年の震災で茨城県でも多くの方が被災されました。私事で恐縮ですが、親きょうだいとその家族が茨城北部に暮らす私は、自らは被災を免れながらも、経験したことのない不安と緊張でいっぱいの日々を過ごしました。震災の報道や映像を目にするたび、被害のすさまじさと人々の哀しみに無力感が募るばかり。そんななか一瞬気持ちが和らいだのは、テレビから郷里の言葉が聞こえたときでした。被災された方のお話に気が沈むなかでも、身体に染み込んだ言葉の音色が、はじめて聴く人の声に共鳴するのを止められませんでした。

おすすめの♪

ちょっといいは店

和食処 山ごぼう

瀬川 忍

(学生部学務課教務係)

年に数回、親しい友人たちと「女史会ランチ」を開催しています。毎回、それぞれが集めた美味しいと評判のお店情報から訪問先を選んでいます。今回は野々市にある「山ごぼう」さんへ伺いました。このお店は2011年8月に新装オープンしましたが、旧店舗の時から女性の間では「素材が活きたお料理」を提供していると評判が良かったので、とても楽しみにしていました。

お店の外観は古民家を再生したような雰囲気で、女将さんによれば「ちょうど建て替えを計画しているときに、古い立派な住宅を壊すので、良かったらしい部材を使わないか？」と声を掛けられたそうです。立派な梁や柱が、新しいお店として再生されました。内装も古民家風で、天然木のテーブルや囲炉裏のようなテーブルと、いくつかの小部屋もありました。女性は外食の時、バッグの置き場に困るものですが、テーブル席には銘々にバッグなどを入れる籠が用意されていて、ゆっくり座ることができました。お店は157号線沿いの野々市交差点にありますが、交通量が多い割には、お店に入るととても静かで落ち着ける雰囲気です。聞こえるのは美味しいお食事に花を咲かせる女性のおしゃべりだけです。

私たちが注文したのは「きまぐれおやじのおまかせ定食」(850円)と、食後に珈琲とデザート(わらびもち)のセット(420円)でした。季節の野菜や地物野菜のてんぷらは、どれも野菜の味が生き生きとしていました。お野菜中心のお料理なので、皮下脂肪が気になる私には嬉しい内容です。女史会メンバーにはお料理の専門学校の先生もいますが「美味しい」を連発して食べていました。このお店を数回利用した人の話によれば「釜飯」がお奨めだそうで、「次回は釜飯ね！」とお店を後にしました。



★★山ごぼう Data★★

住所：野々市市横宮町14-46

TEL：076-246-5105

営業時間：平 日11:30～14:00、18:00～23:00

土・日18:00～23:00

定休日：月曜日 駐車場：13台

※お店のHPアドレス <http://www.yamagobou.jp/index.html>※女将さんのブログ <http://yamagobou.jugem.jp/>

*
編集後記
*

開学記念日も過ぎて、はや6月。皆様、お待たせしました。『ゆにゆに』「時の記念日」号(?)をお届けします。原稿をお寄せくださった石黒さん、瀬川さん、ありがとうございました。そして、編集を担当してくださった星野さん、おつかれさまでした。はじめて名前を聞く異国の街がとても身近に感じられたり、以前から気になっていたお店が紹介されて嬉しかったり、『ゆにゆに』ってやっぱりいいですね~。久々の「新アカンサスレビュー」もぜひご覧くださいね。(K)